

# 施工現場ルポ

## YKKAPの非溶接工法

東京都のベッドタウン、西東京市で建築中の高級マンション。サッシ取り付け現場では、そこにあるはずの火花や煙が見えない。三菱地所レジデンス（本社・東京都千代田区、社長・小野真路氏）が手掛けるザ・パークハウス保谷レジデンスの窓ではYKKAP（本社・東京都千代田区、社長・堀秀充氏）の非溶接工法が採用されている。非溶接工法は同社が業界に先駆けて開発。火気を使わないほか、施工に熟練技術を要しないことが特長。現場の安心・安全や、日本の建築現場で課題になっている人手不足への対応に貢献する。施工現場を訪れたので、その利点を紹介する。

（古瀬 唯）

同工法は乾燥すると強度や耐風圧性、水密硬化する樹脂でサッシ性など諸特性はビル用を固定し、取り付けるサッシに必要な水準を工法。窓周りのビル躯体有しているが、価格は体にピンを差し込み、従来工法と同等となつた筒形の樹脂枠をセッている。ビル用アルミト。樹脂枠にサッシのサッシの基幹製品である側部品を入れ、市販のエクシマ31など多数の注入ガンでウレタン樹脂の製品に対応し鉄筋コンクリートの枠に取り付けられる。またスチールドアの取り付けも

これまでの採用は約800現場で、難易度が高い自治体の庁舎など公共物件も多い。また東日本大震災からの復興にも貢献して、東北地域の復興住宅や学校の再興などで用いられたことも。昨年、YKKAP商品は今後は三菱地所レジデンスをはじめ大手デベロッパーは「安全は目には見えない物だが非常に大切な契機になれば」とPRするためポスターを掲示するケースも。また溶接工法では雨天時に溶接機の電源が感電を防ぐため作業ができないが、非溶接工法では感電事故の抑えや天候に左右されない施工を可能にした。併せて人手不足への対応にも大きく貢献。建築現場の平均年齢が上がる中、現場負担の低減がますます重要になっている」と強調する。非溶接工法では数十ある溶接電源を運び上げる手間が不要。マスクの着用が要らず、夏場などの作業が非常に楽になる。

### 安全・人手不足に対応

## 無火気でビルサッシ施工

担当する宇田川敏規エンジニアも始まっている。発売から着工件数の変化にも影響されることなく、昨年度は280現場で施工された。

「開発は5年がかり。樹脂の選定で強度も影響されることなく、昨年度は280現場で施工された。」と振り返る。施工に火を使わない



非溶接工法でビルサッシを施工



施工現場のザ・パークハウス保谷レジデンス

YKKAPはサッシを取り付ける協力会社裏打ちされた提案力で、現在までに約900人が受講。技術開発に加え完璧な施工に向けた仕組みづくりにも余念がない。施工品質の安定化に加え現場への優しさも特長。YKKAP新宿支店の鴨井宏幸営業部長は「ビルサッシのビジネスにとって職人の確保は非常に大切。建築現場の平均年齢が上がる中、現場負担の低減がますます重要になっている」と強調する。非溶接工法では数十ある溶接電源を運び上げる手間が不要。マスクの着用が要らず、夏場などの作業が非常に楽になる。

YKKAPでは「別格は安全」のモットーで建材を現場に供給している。安全は順位づけできない程大切な存在という意味だ。今後も建物や作業者の安全を守る非溶接工法を拡大していく方針。高い技術レベルに裏打ちされた提案力で顧客ニーズに引き続き